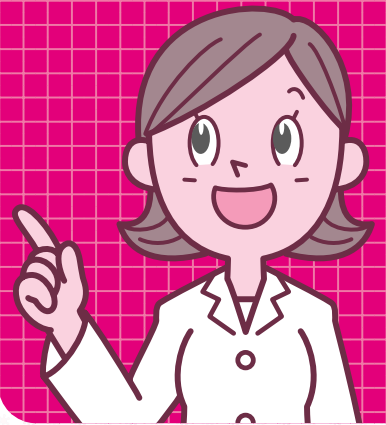


聞いたことが  
ありますか…?

# CDE

日本糖尿病療養指導士

今回は、榛村副看護部長から  
お話しをうかがいました。



1620万と聞いて何の数字だと思いますか。  
答えは、わが国の糖尿病患者の数です。なぜ糖尿病患者が増加してしまっ  
たのか？ 糖尿病がなぜ現代病と言われるようになったのか…？  
CDEの誕生の経過を紐解いていくと、その理由が分かります。

## 糖尿病の発症とCDM

これは日頃の生活習慣と大きく関係し  
ています。言い換えれば、生活習慣を見  
直すことで糖尿病を悪化させることな  
く、また境界型であっても発症を抑えら  
れると言われています。

実際に糖尿病治療の95%は、患者様自  
身によって行われる自己管理によるもの  
です。自己管理のきめ細かな患者教育は、  
糖尿病治療の根幹であり必要不可欠なも  
のとなつています。しかし、専門医の絶  
対的不足の中では、きめ細かな患者教育  
は実施困難な状況になっています。

そこで、日本糖尿病学会は2000年  
に日本糖尿病療養指導士(CDE)の認  
定制度を発足させ、患者教育を充実させ  
ることとしました。

## CDEの役割と機能

- ①糖尿病に対する深い知識を持ち患者様に接する。
- ②患者様の社会的・心理的背景を理解する。
- ③患者様が糖尿病の療養生活に向けて、より良い習慣に行動変容し更に継続できるように援助する。
- ④患者様が自分自身の生活習慣を振り返ることができるように援助する。

## 当院のCDEの活動

### 1 糖尿病患者会 (オリーブの会)の育成

平成15年9月に第1回総会を開催し、  
毎年、オリーブの会主催のイベントを開

催しています。

2月には、つま恋さんの協力を得て「楽しくバイキング」。糖尿病や健康に関心のある方の参加も歓迎することで、毎回参加者は50名を超える人気です。

5月は、同じく緑豊かなつま恋で「みんなんで歩こう会」。天候にも恵まれ、患者様、家族の皆様からの評判も上々です。

7月は、病院の講義室にて「みんなで語る会」。日頃の悩み事などを話し合い、患者様一人一人が1年の目標を立て、取り組んでいけるようにしています。患者様同士が話し合うことは互いに励まされ、評判の高いイベントです。



### 2 掛川糖尿病研究会の運営

毎月1回、第3土曜日に当院、近隣病院・病院のスタッフを対象に勉強会を始めて、今年で6年目と成りました。確かな知恵をもって患者様に関わっていきけるように日々学習しています。日本糖尿病療養指導士認定機構の認定更新のための研修として位置づけたことで、当院の研究会は全国的にも名前を知られるところ

となりました。昨年からは著名な講師をお招きして特別講演も開催しています。より専門的な学びが掛川でできることは誇りに思います。

### 3 糖尿病教室

現在、当院の教室は糖尿病専門医が不在になってしまったことで、形を変えて教室を続けています。入院患者様、通院患者様の希望に応じて出張教室を実施しています。個別教育は、より患者様の生活に合わせた教育となつて、成果の手応えがあります。

## 終わりに

厚生労働省は「糖尿病対策推進会議」を立ち上げ、国連は糖尿病を撲滅運動の疾患として指定し、青い輪のシンボルマークを作り、撲滅運動を広げています。患者様で、良好なコントロールが維持できているのは、僅かに16%に留まっています。この数字は自己管理の困難さ、継続治療の困難さを物語っています。

今年新たに4人の当院スタッフがCDEの認定試験に合格し、全部で20名になりました。特に、当院の強みは看護師・栄養士・理学療法士・薬剤師・臨床検査技師など5職種のスタッフが揃っていることです。スタッフが協力して今後も「患者様にとっての」地道な活動を続けていきたいと思ひます。